



現在の武蔵境駅の象徴とも言えるみどりのゲート(写真左)と曲線を多く用いた駅舎は、地域の要望によって実現した。

特集①

# つながる

# 新しい武蔵境

▶ 安全で暮らしやすいまちづくり ◀

武蔵境駅北口の駅前広場が整備され、武蔵境地区はいつそう住みやすく、安全・安心なまちに変わりつつあります。

地域の方と共に歩んだ武蔵境駅周辺の開発について経緯と概要を紹介します。

### ■ 武蔵境駅周辺開発の経緯

昭和46年	長期計画で駅周辺の開発が6大事業の1つとなる
昭和51年	開発事務所境分室(現武蔵境開発事務所)が開設される
昭和52年	武蔵境駅周辺地区市街地再開発計画(市案)を発表
昭和54年	南口駅前広場が完成
昭和59年	「境・北口まちづくり市民委員会」が発足
昭和61年	都計道3・3・23号武蔵境駅北口線都市計画決定
平成元年	ショッピングモール「すきっぷ通り」が完成
平成6年	東京都の鉄道連続立体交差事業都市計画決定
平成8年	スイングビル竣工、「武蔵境駅舎・広場・街づくり協議会」が発足
平成23年	武蔵野プレイス・ふれあい広場公園が完成
平成26年	鉄道連続立体交差事業が完了
平成28年	北口駅前広場が完成

北口広場整備で  
長年の都市計画が形に

武蔵境の駅の歴史は、吉祥寺や三鷹よりも古く、明治22年、甲武鉄道会社の「境停車場」として開設されました。当時は小金井桜の見物客で大いににぎわったといわれています。しかし、その後の駅周辺の整備は他地域に遅れることとなります。昭和46年の第一期長期計画で3駅周辺の整備計画が都市

改造六大事業に位置付けられ、昭和52年に市は武蔵境の再開発計画案を出しました。南口は昭和54年に整備されましたが、北口は地域住民の意見集約に時間を要し、計画はなかなか進みませんでした。

地域住民を中心とした新たな委員会を立ち上げた市は、昭和61年、新案を発表。同年都市計画決定がなされ、翌年東京都から事業認可を受けます。平成7年、東京都の事業と



駅舎改修前の平成23年の北口

安全で便利な交通網と武蔵境らしい

# 水と緑のまちづくり

北口駅前広場へのメイン通りとなるカルチャーモール、商店が続くショッピングモール、今回の北口のグリーンモール完成により「うるおい・ふれあい・にぎわい」をテーマとした駅前空間が整いました。

## 駅の周辺



周辺では道路整備が進み、車は走りやすく、歩行者は安全で歩きやすい環境が整備された。

## 駅前ロータリー

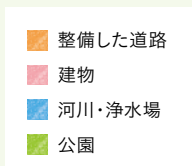


一方通行だった北口の駅前はロータリーになり、一部に偏りがちだった交通は平準化された。歩道の幅も大きく広がっている。

## 五宿踏切



鉄道の高架化は、鉄道機能と安全性を維持しながらの工事で15年続いたが「開かずの五宿踏切」も無くなり周辺はとても快適になった。



市民の皆さんには本当に長い間見守っていただき感謝しています。



都市整備部  
武蔵境開発事務所  
高橋 弘樹 所長

いく予定です。

この3月、都市計画決定から約30年の歳月を経てようやく完成しました。今後は一部の道路拡幅と、昭和54年に整備された南口駅前広場のバリアフリー対応などの改善を進めて

備を行いました。

して駅舎改修を伴う高架化事業の実施が決定されます。翌年、これらの事業に対して住民の声を届けようと、地域を母体に青少年協議会・市民社会福祉協議会などで構成される「武蔵境駅舎・広場・街づくり協議会」が発足。JR東日本と協議を重ね、地域の意見が反映された現在の新しい武蔵境駅ができました。北口駅前広場は、広場用地に高架化工事のための仮線が通っていたため、高架化完了を待って整備を行いました。





## 玉川上水から分水された用水路が広がった 武蔵境にふさわしい潤いあるまちづくりに

武蔵境の象徴の  
1つとなった  
「すきっぷ通り」

北口側は、すきっぷ通り商店街やスイングビルなど駅周辺の開発が先行してきましたが、今回新たに緑豊かな駅前広場や高架下の「ののみち」が完成。快適に歩ける広い道が整備されました。



# 北口

市民とともに作ってきた

## 北口駅前広場

南北をつなぐ通路入り口のみどりのゲート、桜などを中心にした植栽、広場に設置される壁泉など、北口の駅前空間には市民による提案が数多く反映されています。高架化工事の完了を待つために、駅前開発が進まなかった時期もありますが、結果的には十分な議論を重ねる機会となりました。



玉川上水やその分水が豊富だった武蔵境をイメージした壁泉は2016年3月下旬に完成予定です。



(上) 武蔵境駅から東小金井駅に向かって続く「ののみち」。(左) Suicaで簡単に利用できる駐輪場やレンタル自転車の試みも。

気軽に歩ける明るい高架下に

## ののみち

駅の商業施設「nonowa」と連続し、JR東日本が整備する「ののみち」は、従来の薄暗い高架下のイメージを変える、楽しい歩行空間です。さまざまな店舗が並び、コミュニティガーデンやベンチも設置されています。ガーデニングイベントや高架下コンサートなどを開催することも。

武蔵野市の歴史と記憶を伝える

## 武蔵野ふるさと歴史館

旧西部図書館の施設を利用し、平成26年12月に開館した「武蔵野ふるさと歴史館」は、市の歴史を学び未来へ伝えるための新しい拠点です。市に関する古文書・民俗・考古資料のほか、戦時中の資料なども保存・収集・公開しています。



(左) 貴重な資料とともに武蔵野市一帯の歴史を学ぶことができます。(右) 吉祥寺村傅之丞が所持していた蜂須賀家江戸屋敷へ出入りするための御門関札。

約350年の歴史を伝える  
杵築大社も特徴的。

## 古きも新しきも共存できるまち並みで、 どの世代の人も心地良く過ごせる武蔵境に



早くに整備された南口は、駅前の公園や街路樹の整備でいっそう緑豊かに。歴史ある観音院と近代的な建物の武蔵野プレイスを臨む道は高架下からスイングビルにつながり、文化芸術の空間を生み出しています。



# 南口



武蔵野プレイスの外観。正面入り口からすぐ、カフェとマガジンラウンジがあり、連日多くの市民が思い思いの時間を楽しんでいる。

### 市民それぞれの「場」が見つかる

## 「ひと・まち・情報 創造館」 武蔵野プレイス

農水省食糧倉庫跡地を活用した武蔵野プレイスは、図書館だけでなく、生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援などの機能をもつ複合機能施設としてつくられました。

4つの機能がお互いに刺激し合うことで各機能が積極的に連携・融合し、多様で

異なる活動が出会い交差する「場」が創り出される環境を提供します。オープンで多様なコミュニケーションの「場」は、人と人を結びつけ、創造や対話の可能性を広げていくことにつながります。これまでの公共施設の枠にとらわれない試みとして、市内外から多数の反響をいただいています。



館内は、曲線を用いて居心地良さをもたらすデザインに。各空間は連続的につながれ、市民が別々の活動をしていても思わぬ出会いや発見が生まれるよう工夫されている。



公園は、地域の核となるような場として、武蔵野プレイスと一体的に計画・整備された。



災害用トイレが10基あるなど、防災機能も整備されている。



平成27年11月に開催した「第8回むさしの環境フェスタ」。公園と武蔵野プレイス館内には、多様な環境活動について子どもも大人も楽しく学べるブースが多数出展した。

### 自然と腰をおろして話したくなる 境南ふれあい 広場公園

南口ロータリーの隣、駅のすぐ目の前に広がる2000平方メートルを超える空間。広場をケヤキとイチョウの大木が囲み、ベンチに腰掛ける方や芝生を走る子どもたち、武蔵野プレイスと共にさまざまな年代の人が集まる公園です。平坦でゆったりした広場はイベント会場にも最適で、隣接する武蔵野プレイスと一しょに毎年多数の催し物が開かれています。



もっと

楽しいだけでなく、安全で安心して暮らせる武蔵境を目指して

# 暮らしやすいまちへ

北口と南口を中心とした駅周辺の開発ではありません。武蔵境のさまざまな場所で、いっそう快適で安心して暮らせるまちを目指し、開発は進められてきました。歩きやすい道が広がることでまちにも変化が現れています。



隣接地に道路ができたことで農業体験を始めた農家も。



暮らしやすいまちづくり①

まち全体をスムーズにつなぐ

## 道路整備

道路は、歩道の拡幅、防災機能の向上などの安全性確保や、まちの交通流動性を高める機能など、複数の目的から計画的な整備を行っています。



平成23年と平成28年現在、同じ場所から撮影した市道第291号線。アジア大学通りから高架下、南側へと抜ける道ができた。

暮らしやすいまちづくり②

すべての歩行者に優しい

## バリアフリーなまちへ

比較的最近整備を進めた道路などでは、近年の高規格のバリアフリー概念に沿って、車椅子の方を含む歩行者に優しいまちづくりを徹底しています。一見してわからない工夫もあり、目を凝らしてまちのこだわりを探してみるのも楽しいかもしれません。



(左) 横断歩道の付近では道路側が盛り上がり、歩道と道路の段差を少なくしている箇所も。(右) 北口駅前広場のブロックは透水性に優れ、雨の日も歩きやすい。

暮らしやすいまちづくり③

夜でも安心して歩ける

## 明るいまち並み

高架下は薄暗く、夜は少し不安といったイメージが持たれがちですが、JR東日本の取り組みにより、のみちをはじめとする武蔵境駅の高架下は、夜もなるべく暗い箇所がないよう照明に工夫がされています。駅前広場や道路においても、景観を書さない範囲で明るく柔らかな光が灯ります。



(左) 北口駅前広場はどこを歩いても10ルクスの明るさが取れるよう設計されている。(右) 高架の底部が光をよく反射し、間接照明のように周囲を照らす。

みんなでつくろう

# 武蔵境のこれから

武蔵境は長らく、線路によってまちが南北に分断されていました。鉄道の高架化により、南北の空間的な一体化が実現した今、まちや人々が1つになることを目指して、さまざまな試みが動きつつあります。



武蔵境  
ピクニックの  
マスコット  
キャラクター  
「歩人くん」

## 南北を楽しくつなぐ 武蔵境ピクニック

市民を中心とした実行委員会によって運営され、毎年1回、5月頃に開催されるまち歩きイベントです。イベント通貨と周辺地図を使って行われる「スタンプラリーショッピング」が大人気(事前の申込みが必要)。スタンプや買物で南北を周遊し、ピクニック気分ですることができます。また、ゴールの境南ふれあい広場公園ではイベントや多くの模擬店もあり、会場はお祭りのようになぎわいを見せます。



昨年のイベントの様子。内容は少しずつ手直しされ、年々参加者が増大。今年は10回目となり、さらなる盛り上がり期待される。

### 市民団体による演目も多数(2015年)

合唱	境南小学校合唱団
吹奏楽	桜野小学校吹奏楽クラブ/日本獣医生命科学大学吹奏楽部/亜細亜大学吹奏楽団
ちんどん	武蔵野ちんどん同好会
子どもばやし	二小むさしのばやしクラブ
和太鼓	和太鼓SOH・和太鼓 境
フラダンス	フラ・ホアピリ
ダンス	武蔵野大学ダンスクラブ「Alpha」



今年も500円分のイベント通貨を使った、街歩きショッピングを開催。すべてのチェックポイントを回るとステキな景品も。「歩人くん」コンテストも開催予定。

## 安全強化の取り組みは 仕上げ段階に

今後、消防車や救急車など緊急車両の通行に課題のある場所の道路拡幅や、南口駅前広場ではバリアフリーの改善が予定されています。



かつて水路だった名残のある北口東地区の道。今後、拡幅が予定されている。

## イトーヨーカ堂、セブン・イレブンジャパンとの 連携により新しいサービスを発信

南口駅前のイトーヨーカ堂と市内のセブンイレブン・ジャパンと市は2015年に包括的な連携協定を締結。今後、三者が連携し、地産地消や食育の取り組み、身体が不自由な方への宅配サービスなど、市民サービスの向上につながる新しい事業の検討を進めていきます。



地域特性にあったサービスの検討を進める。